

# 内科医師に聞く！ 血管炎ってどんな病気？

内科 遠藤 哲也

「血管炎」という病名を聞いたことがありますか？ 以前は、まれな疾患として考えられていましたが、最近では比較的身近で日常診療でも遭遇する疾患であることがわかりました。今回は、血管炎という病気について簡単に解説したいと思います。

血管炎とは、人間の体全体に分布する**血管自体に炎症を起こす病気**です。多くは慢性的に経過する全身性疾患で、関節リウマチや全身性エリテマトーデスなどの自己免疫疾患の一つとして分類されます。多くの自己免疫疾患がそうであるように、血管炎の原因に関しては明らかではありません。

## 血管炎は大きくわけて 3 種類

### 大型血管炎

#### ●高安動脈炎



#### ●巨細胞性動脈炎



### 中型血管炎

#### ●結節性多発動脈炎



#### ●川崎病



### 小型血管炎

#### ●免疫複合体性血管炎

- ・クロオグロブリン血症性血管炎
- ・IgA 血管炎



- ・抗 GBM 病
- ・低補体血症性蕁麻疹様血管炎

#### ● ANCA 関連血管炎

- ・顕微鏡的多発血管炎
- ・多発血管炎性肉芽腫症
- ・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症



川崎病と IgA 血管炎が小児に、高安動脈炎が若年女性に多い以外は、中高年での発症が多いとされています。

## 血管炎による全身症状

全身性疾患の症状として発熱、倦怠感、食欲不振、体重減少、関節痛などがあります。また、障害を受けた血管に分布する各臓器も障害を受けるため、多彩な臓器症状が出現します。

難聴・耳閉塞感

耳

眼

眼痛・充血・複視・視力低下

肺と気管支

血痰・咳嗽・呼吸困難

鼻

鼻閉・鼻汁・出血

末梢神経

四肢感覚障害・筋力低下

皮膚

紫斑・網状皮斑・潰瘍



## 血管炎の治療

治療は、免疫機能を抑制するステロイドや免疫抑制剤・生物学的製剤といった薬物療法が中心となります。また補助療法として、血漿交換（体内のグロブリンと呼ばれる蛋白を入れ替える）や免疫グロブリン静注療法（新しいグロブリンを投与する）があります。これらを組み合わせながら治療を行うことで、病気の鎮静化を図るのが治療目標となります。あまり聞きなれない病名ばかりだったと思いますが、世の中にはこういう病気もあることを知っていただければ幸いです。